

改善報告書

大学名称 関西看護医療大学 (評価申請年度 2012年度)

1 努力課題について

No	種 別	内 容
1	基準項目	1 教育内容・方法・成果
	指摘事項	学位授与方針に、課程修了にあたって修得しておくべき学習成果が明示されていないので、教育目標に照らして適切に設定し、周知・公表することが望まれる。
	評価当時の状況	学位授与方針においては、「卒業要件単位数を修得した者」という設定になっており、具体的な到達能力目標は定められていなかった。
	評価後の改善状況	平成 27 年度よりカリキュラム内容を全面的に改編し、その際「入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」「カリキュラム編成方針（カリキュラム・ポリシー）」「学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）」の全てを見直したうえで刷新した。 指摘を受けた「学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）」においては、卒業時の能力到達目標地点が明確になるよう定められている。 周知・公表においては、全学生に毎年配布される学生便覧において平成 27 年度版より刷新した教育目標から全てのポリシーを掲載（p2・3）するとともに、大学ホームページにおいても掲載し、全学的な周知を図っている。また、入学ガイダンスにおいて、全新入生に教育目標から卒業時の能力到達目標を具体的に説明する機会を設けている。
	改善状況を示す具体的な根拠・データ等 1－1 関西看護医療大学学生便覧 2015 年度 p 2, 3 1－2 学位授与方針（HP） http://www.kki.ac.jp/daigaku/pdf/diploma_policy.pdf	
	<大学基準協会使用欄>	
	検討所見	
	改善状況に対する評定	1 2 3 4 5

1 努力課題について

No	種 別	内 容
2	基準項目	1 教育内容・方法・成果
	指摘事項	シラバスの内容には精粗が見られ、授業計画が複数回まとめて表記されている科目があることから、学生が自己学習に活用できるよう改善が望まれる。
	評価当時の状況	特に講義回数の多い一部の講義・演習科目において、複数回をまとめて講義・演習内容が示されている科目があった。
	評価後の改善状況	平成 27 年度版シラバスより、講義・演習の全科目を対象に講義内容が明確になるよう教員へのシラバス作成ルールを統一するとともに、各回の講義において授業時間外の学習内容（準備学習）を明示し、その準備にかかる目安時間を記載するシラバス様式へと変更した。
	改善状況を示す具体的な根拠・データ等 2－1 教員向けシラバス記載例（様式） 2－2 平成 27 年度（2015 年度）版シラバス 2－3 平成 28 年度（2016 年度）版シラバス	
	＜大学基準協会使用欄＞	
	検討所見	
	改善状況に対する評価	1 2 3 4 5

1 努力課題について

No	種 別	内 容
3	基準項目	2 学生の受け入れ
	指摘事項	過去 5 年間の入学定員に対する入学者数比率が 1.20 と高いので、改善が望まれる。
	評価当時の状況	平成 20 年度及び平成 21 年度において定員割れとなったこともあり、入学定員に対する入学者数比率が高い状況となった。
	評価後の改善状況	理事長及び学長の指示に基づき入学者数比率を 1.00 以上 1.20 未満にすることを方針とした。その状況において地域医療の充実等を図るため、本学として入学定員を増員する方針を理事会及び教授会で決め、平成 27 年度より入学定員を 80 名から 90 名に変更した。これにより、入学者数比率が改善傾向に向かい、平成 24 年度から平成 28 年度までの 5 年間の入学者数比率は、1.18 に改善している。
	改善状況を示す具体的な根拠・データ等 入学試験出願状況(学部) 大学基礎データ表 4 教授会議事録(平成 26 年 1 月 15 日開催) 理事会議事録(平成 26 年 1 月 22 日開催)	
	＜大学基準協会使用欄＞	
	検討所見	
	改善状況に対する評価	1 2 3 4 5

1. 努力課題について

No.	種 別	内 容
4	基準項目	3. 教育研究等環境
	指摘事項	海外学術雑誌が少ないことや、有料データ検索ベースに海外文献検索を主としたものが採用されていない等、図書館に置いて必要な質・量の図書、学術雑誌、電子媒体等が十分ではないため、改善が望まれる。
	評価当時の状況	ご指摘の通り、海外文献検索用の有料データベースは採用していなかった。海外学術雑誌については開学時より購読雑誌の内容にほぼ変更がなかった。
	評価後の改善状況	洋雑誌の利用方法としては、「タイトル購読」より圧倒的に「記事検索」での利用の方が多いと考え、検索からフルテキストにアクセスできる有料の海外文献検索データベースとして CINAHL with Fulltext を 2015 年度より採用した。このデータベースは、1993 年以降の看護系洋雑誌約 600 タイトルを文献単位で検索し、フルテキスト利用することができる。これにより、海外学術雑誌の実質増加となり、データベースの採用に伴い図書館における洋雑誌利用環境が改善された。
	改善状況を示す具体的な根拠・データ等 4-1 CINAHL with Fulltext の請求書写し	
	＜大学基準協会使用欄＞	
	検討所見	
	改善状況に対する評価	1 2 3 4 5